

Novel, Challenge and Change
All Activities for Cancer Patients

最善のがん薬物療法の実践を目指して



国立がん研究センター

薬剤師レジデント がん専門修練薬剤師募集 (平成30年度)



国立研究開発法人

国立がん研究センター

National Cancer Center

<http://www.ncc.go.jp/>

- 2 沿革／設立の目的とその使命
- 4 薬剤師レジデント制度について
- 5 薬剤師レジデント研修過程の内容
- 7 研修に関する Q&A
- 8 チーム医療に貢献する薬剤師
- 10 研修スケジュール
- 11 薬剤師レジデントの生活
- 12 薬剤業務
- 14 がん専門修練薬剤師の創設
- 16 募集要項（薬剤師レジデント）
- 18 募集要項（がん専門修練薬剤師）
- 20 薬剤師レジデントより
- 24 がん専門修練薬剤師より
- 27 交通情報

設立の目的とその使命

戦後、日本人の疾病構造が変化し、「がん」による死亡が増加し、その傾向はさらに強まることが予測されたため、国として、国民の医療・保健対策上の見地から、がん対策の中核として総合的な「がんセンター」の必要性が強く認識されました。そこで、1960年、当時の日本医学会会長、田宮猛雄氏ら9名の学識経験者からなる国立がんセンター設立準備委員会が発足し、「国立がんセンター」のあり方、将来構想など重要事項について検討し、厚生大臣宛に意見具申書を提出しました。それに従って、1962年2月1日、「国立がんセンター」が正式に発足しました。その目的は、東京に理想的ながんセンターを設立して全国的ながん施策の中核にすることでした。

その後、1992年に千葉県柏市に国立がんセンター東病院が設立され、1994年には、東病院に隣接して研究所支所、2004年には、がん予防・検診研究センターが築地キャンパスに設立され、翌2005年には柏キャンパスの東病院の中に研究所支所の組織を改め臨床開発センターが活動を開始しました。さらに2006年10月には築地キャンパスにがん対策情報センターが設立され、より一層施設の拡張と充実がなされ、病院、研究所が一体となって予防、診療、研究、研修、情報収集・発信の分野において、我が国のがん施策の中心的な役割を果たして来ました。国立がん研究センターは、我が国のみならず、世界的ながん対策の中核的な施設として、人類の悲願である「がん克服」に向けて、全力で取り組んでおります。

国立研究開発法人 国立がん研究センターのあゆみ

▶ history of 国立研究開発法人 国立がん研究センター

36年2月16日	国立がんセンター設立準備室設置
37年1月1日	国立がんセンター設置
37年2月1日	総長 田宮猛雄 以下人事発令
37年5月23日	病院診療開始
37年6月23日	開所式挙行
38年7月29日	電子計算機導入
39年3月30日	図書館竣工
39年4月1日	総長 比企能達 就任
41年4月1日	各種研修会開始（国内・国外）
42年4月1日	総長 久留勝 就任
42年9月30日	中央診療棟竣工
44年11月1日	レジデント制度発足
45年9月21日	総長 塚本憲甫 就任
45年10月1日	WHO 国際がん情報センター設置
49年9月1日	総長 中原和郎 就任
51年2月16日	総長 石川七郎 就任
51年3月29日	病棟竣工
51年12月1日	オンライン文献検索システム（JOIS）導入
53年2月20日	外来診療棟竣工
56年4月1日	共同利用型病院情報システム（SHIS）導入
56年8月26日	WHO「喫煙と健康」研究協力センター設置
35年8月6日	国立がんセンター設立
38年9月14日	「がん研究助成金取扱規程」告示 準備委員会発令
40年10月6日	全国がん（成人病）センター協議会発足
43年9月2日	財団法人がん研究振興会設立
44年10月6日	第12回国際放射線医学会議（会長 塚本憲甫）
45年10月19日	第8回癌治療学会（会長 石川七郎）
48年10月2日	第32回日本癌学会（会長 塚本憲甫）
51年4月5日	第76回日本外科学会（会長 石川七郎）
53年7月10日	第1回世界気管支腫瘍学会（会長 池田茂人）
53年11月3日	第1回世界気管支腫瘍学会（会長 池田茂人） 研究所長 杉村隆 文化勲章授章
54年9月20日	第17回日本癌治療学会（会長 市川三郎）
55年10月7日	第35回病国癌総合医学会（会長 石川七郎）
55年11月5日	第39回日本癌学会（会長 石川七郎）
56年9月21日	第3回国際環境変異原会議（会長 杉村隆）
57年5月17日	第3回世界肺癌会議（会長 石川七郎）

▶関連事項



設立時の建物



外来診療棟竣工（昭和53年）



研究棟竣工（昭和56年）



東病院と臨床開発センター



中央病院新棟竣工（平成10年）



診療棟（がん予防・検診研究センター）



「癌」の文字から「疝」（やまいだれ）を取り除き「癌」とし、それを図案化したものです。昭和45（1970）年

シンボルマークの内側の3つの輪は、「1. 世界最高の医療と研究を行う」「2. 患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、「(1) 臨床」「(2) 研究」「(3) 教育」を表しています。外側の大きな輪は「患者・国民の協力」を意味します。

▶ history of 国立研究開発法人 国立がん研究センター

56年9/25	新研究棟竣工
59年7/1	総長 杉村隆 就任
60年8/31	がん研究振興財団の国際研究
61年2/1	特定承認保険医療機関と交流会館竣工
63年3/29	高度先進医療の承認 外国医師・歯科医師臨床修練指導
元年3/24	国立がんセンター倫理審査委員会発足 病棟の施設承認（中央病院）
元年3/25	外来診療棟分館竣工
2年6/1	がん専門修練医制度発足
4年1/1	総長 未対患一 就任
4年7/1	国立がんセンター東病院開院
4年7/1	国立がんセンター中央病院（名称変更）
5年8/26	外国医師・歯科医師臨床修練指導
5年9/1	高度先進的医療機関として 病院の施設承認（東病院）
6年4/1	特定機能病院の承認（中央病院）
6年4/1	総長 阿部薫 就任
6年4/1	国立がんセンター研究所支所開所
6年4/1	築地・柏キャンパス間の光ファイバー
6年12/1	情報ネットワークシステム導入
7年2/7	がん診療総合支援システム稼働 スーパーコンピュータ導入による 情報ネットワークシステム導入
9年3/14	陽子線治療棟竣工
10年10/31	中央病院新棟竣工
11年1/4	中央病院新棟診療開始
11年4/1	総長 寺田雅昭 就任
13年3/21	疾病ゲノム棟竣工
14年4/1	総長 垣添忠生 就任
15年12/8	がん予防・検診研究センター竣工
16年2/2	がん予防・検診研究センター検診開始
17年8/1	MRX手術室開設（中央病院）
17年10/1	臨床開発センター開所
18年4/1	薬剤師レジデント制度発足
18年10/1	がん対策情報センター開所
19年4/1	総長 廣橋説雄 就任
22年4/1	独立行政法人国立がん研究センター移行
24年4/1	理事長 廣橋説雄 就任
27年4/1	理事長 堀田知光 就任
28年4/1	理事長 中釜齊 就任

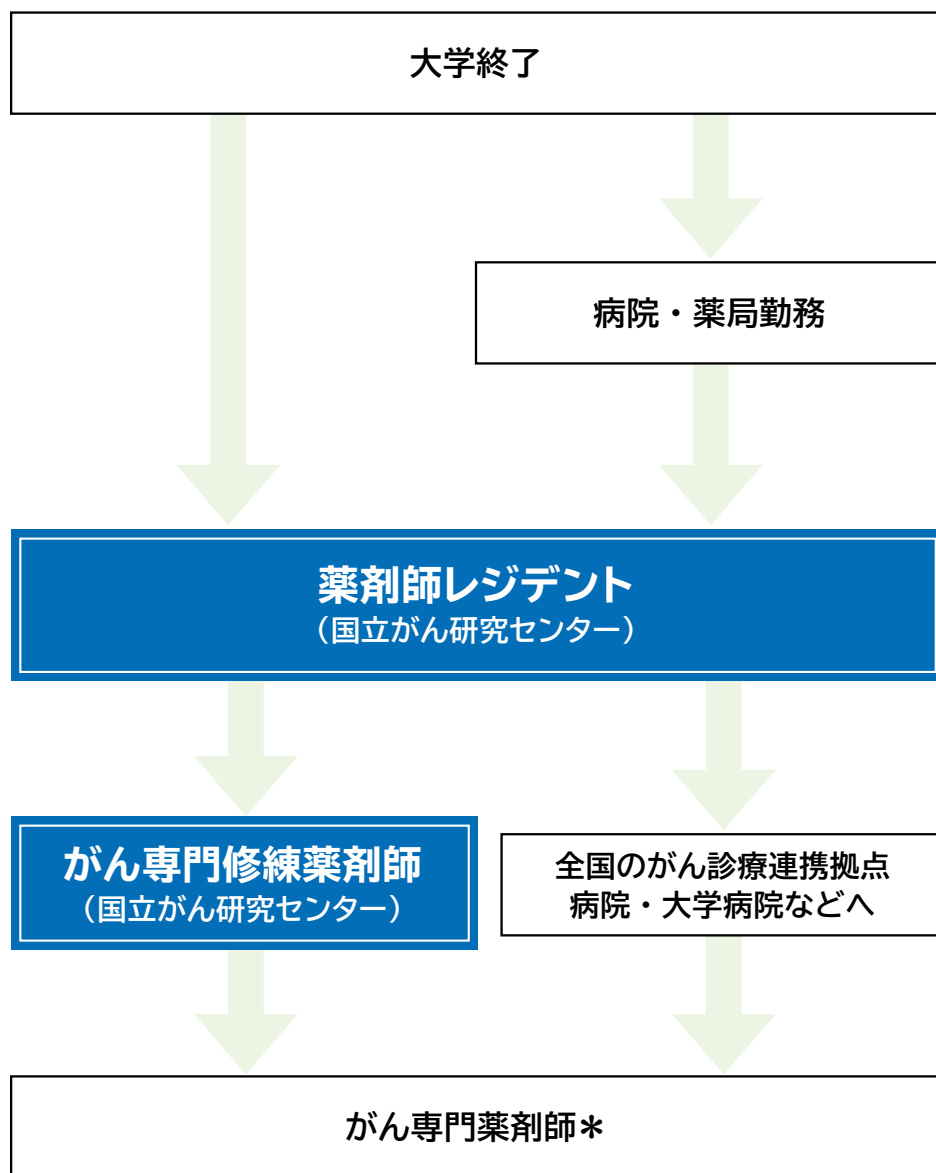
平成

58年6/7	対がん10カ年総合戦略閣議決定
59年4/1	財団法人がん研究振興財団に名称変更
62年9/7	第46回日本癌学会（会長 杉村隆）
63年3/29	第47回日本医学放射線学会（会長 市川平二郎）
2年10/18	第13回日本胸部外科学会（会長 未対患一）
3年9/10	第50回日本癌学会（会長 高山昭三）
6年4/1	がん克服新10カ年戦略発足
10年9/30	第57回日本癌学会（会長 阿部薫）
13年9/26	第60回日本癌学会（会長 寺田雅昭）
14年10/16	第40回日本癌治療学会総会（会長 海老原敏）
16年4/1	第3次対がん10カ年総合戦略発足
18年9/28	第65回日本癌学会（会長 垣添忠生）
21年10/1	第68回日本癌学会（会長 廣橋説雄）
22年6/18	第19回日本脳ドック学会総会（会長 嘉山孝正）
22年10/12	第32回国際がん登録協議会学術総会（会長 嘉山孝正）

▶関連事項

薬剤師レジデント制度について

「がん(悪性新生物)」は、1981年以降、わが国の死因の第一位であり、現在、がん医療の進歩・向上に対する社会からの期待は非常に高いものとなっています。国立がんセンターは1962年に創設されてから、これに応えるためがん専門の医療従事者の育成を行ってきました。我々薬剤師も専門的なチーム医療の担い手として、がん薬物療法における抗がん剤の治療効果に関する知識や安全な調製技術を有する専門性の高い薬剤師を育成する必要性が高まりました。2006年に薬剤師6年制教育が開始されると同時に、当センターでは薬剤師レジデント制度をスタートさせ、今年で12年目を迎えます。薬剤師レジデント制度では、3年の研修期間において、指導薬剤師のもと薬剤業務や病棟業務に従事しながら、知識や技能を修得するとともに、患者との意思疎通およびチーム内の他職種と連携を図るためのコミュニケーションスキルも身につけることを目的としています。これらを通じて、抗がん剤調製やがん薬物療法、緩和医療など高度な技能と知識を持つがん医療に精通した専門薬剤師を養成します。国立がん研究センター中央病院及び東病院は、日本医療薬学会のがん専門薬剤師研修施設及び日本病院薬剤師会のがん薬物療法認定薬剤師研修施設に認定されており、当院でのレジデントとしての3年間の勤務期間は、その研修期間に相当します。これまでに、9期生までがこの制度を修了し、それぞれ医療の第一線で活躍しているところですが、将来のがん医療を発展させ、国民・患者の期待に応えるためには、さらに多くの有為な人材が不可欠であり、志ある薬剤師がこの道を目指して頂くことを期待しています。



*認定要件の例：がん専門施設で5年の研修, 50症例の経験

薬剤師レジデント研修課程の内容

【薬剤師レジデントの研修目標】

Vision: 臨床・研究・教育、各分野でリーダーシップが発揮出来るトップレベルの薬剤師による医療サービスの提供を通じて世界最高峰のがんセンターを目指す

【薬剤師レジデント研修課程における到達目標】

(例: 消化管内科)

1. 胃癌、食道癌、大腸癌の疫学が理解できる
2. 胃癌、食道癌、大腸癌の発生部位と関連した臨床症状が理解できる
3. 胃癌、食道癌、大腸癌の診断・治療導入時から終末までの一連の流れ (Natural Course) が理解できる
4. 胃癌、食道癌、大腸癌の病期別の治療方針が理解できる
5. 胃癌、食道癌、大腸癌の臨床症状に対応するための処置について理解出来る
6. 胃癌、食道癌、大腸癌のレジメン内容を理解し適正な投与量を確認出来る
7. 上記1～6をふまえ、患者に平易な言葉でわかりやすく説明できる
8. 化学療法以外の支持療法も含む薬剤の適切な使用法を確認できる
9. 患者の問題点を抽出し最優先事項を判断し、優先順位に沿った対応ができる
10. 患者の状況について本人ならびに他職種から情報収集でき、薬学的観点からのアセスメントができる
11. 入院治療から外来治療への移行をサポートすることができる
12. EBMの手法にのっとった批判的吟味ができ、消化管内科カンファレンスで簡潔なプレゼンテーションができる

【研修内容】

●業務を通じた研修

病棟業務、外来業務、注射薬混合調製、麻薬管理、薬剤管理指導業務、外来化学療法業務、緩和ケア、医薬品情報管理業務、TDM等

●講義による研修

がんの基礎知識、化学療法、支持療法、緩和医療、がん領域の臨床薬理など。その他、薬剤部勉強会、院内で行われる Medical Oncology Conference、緩和医療・栄養管理・医療安全・感染対策の勉強会に参加します。

【研修期間】

3年間

【年間スケジュール】

1年目

抗がん剤調製や麻薬の薬剤管理等の薬剤業務の基本を修得するとともに、薬剤部勉強会、院内のカンファレンスや勉強会等に参加し、がん薬物療法の基礎を学びます。

2・3年目

病棟業務や外来業務を通じてがん医療の臨床経験を積むことにより、がん専門薬剤師として必要な知識、技能を修得します。

この他、各レジデントは研究テーマを見つけ、毎年中央病院・東病院薬剤師レジデント合同報告会での発表を行い、また関係学会での発表や論文を投稿することが奨励されています。

【充実した講義研修】

がん専門薬剤師研修のための講義を聴講することが可能です。表は平成28年度に行われた研修の日程表です。

	講義日	講義内容	講師
1	1/10	放射線治療 (IVR)	放射線科医
2	1/13	精神腫瘍	精神科医
3	1/16	がん患者と総合医療	総合内科医
4	1/17	大腸癌 (外科治療)	大腸外科医
5	1/19	骨腫瘍	骨軟部腫瘍科医
6	1/20	Pharmacogenomics 研究最前線	研究所 研究員
7	1/25	肺癌 (外科治療)	呼吸器外科医
8	1/26	脳腫瘍	脳外科医
9	2/1	原発不明癌	腫瘍内科医
10	2/2	皮膚腫瘍	皮膚腫瘍科医
11	2/7	生物統計の基礎	生物統計家
12	2/13	がん疼痛治療	がん専門薬剤師
13	2/14	頭頸部癌	頭頸部腫瘍科医
14	2/16	胚細胞腫瘍	腫瘍内科医
15	2/20	抗がん剤の臨床薬理 (PK/PD)	がん専門薬剤師
16	2/21	泌尿器癌 (化学療法)	腫瘍内科医
17	2/22	婦人科癌 (化学療法)	腫瘍内科医
18	2/23	乳癌 (化学療法)	腫瘍内科医
19	2/24	がん薬物療法の実践①処方提案の実症例 (消化管)	がん専門薬剤師
20	2/27	がん薬物療法の実践②処方提案の実症例 (皮膚、HFS)	がん専門薬剤師
21	2/28	造血器腫瘍 (悪性リンパ腫)	血液内科医
22	3/1	肝・胆・膵癌 (化学療法)	肝胆膵内科医
23	3/2	食道癌 (外科治療)	食道外科医
24	3/3	胃癌 (外科治療)	胃外科医
25	3/13	がん薬物療法の実践③処方提案の実症例 (血液)	がん専門薬剤師
26	3/14	B型肝炎、AIDS、梅毒など感染症再燃予防のエビデンス	薬剤師



研修に関する Q&A

Q 研修の特徴は何ですか？

A 全国に先駆けて導入した薬剤師レジデント制度は今年 11 期生を迎えました。多くの指導者が専門資格を取得し、10 年以上にわたるレジデント指導実績の下、調剤技術から薬剤管理指導業務まで、がんに関する専門知識の習得を目指します。薬剤師だけでなく医師、看護師など他職種との連携を通じて多くのことを学ぶことができます。

Q 研修カリキュラムはどの様になっていますか？

A 3 年間のカリキュラムとなっています。2 年目までは、調剤業務などを行いつつ薬剤管理指導業務を実施します。この期間の薬剤管理指導業務は、3～4 ヶ月程度でローテーションしながら複数の診療科で研修を行います。3 年目は希望の診療科で終日薬剤管理指導業務を行い、臨床能力にさらに磨きをかけます。

Q がん医療に関わった経験が少なく、がん専門病院での研修に不安があります。

A 当院のロゴマークにもあるように、国立がん研究センターの目標は世界最高水準のがん診療、最新の治療研究・開発、そして優れたがん医療教育の提供にあります。実際、当院で研修を開始される時点ではほとんどがん治療に関する知識、技術がない方も、研修終了時にはがん医療に従事する薬剤師として独り立ちできるまでに成長します。

Q レジデントの給料はどのくらいですか？

A 非常勤職員手当の規定に基づきます。平成 28 年度見込み支給額は約 300 万円です。部屋の空き状況によりますが、病院に直結した単身宿舎（有料）を借りることができるため、家賃負担が軽減されています。

Q 教育環境について教えてください。

A 抗がん剤治療の件数は 1 日 150 件を超え、全国トップクラスの取扱件数を誇ります。そのため調剤経験はもとより薬剤管理指導においても多くの癌種・症例に触れることが可能です。また、年間 100 を超える講義・セミナーが開催されているほか、薬剤部独自の勉強会も毎月行っており、レジデントだけでなく薬剤部員の教育研修にも力を入れています。

Q レジデント終了後の進路は？

A レジデント修了後、さらに専門性を高めたい方には 2 年間のがん専門修練薬剤師コースに進むことができます。レジデントの就職先としては、がん専門施設を初め各大学、地域のがん診療連携拠点病院に異動し、それぞれの立場でがん医療に携わっている方が多くいらっしゃいます。

Q 研究や学会活動について教えてください。

A 研修中、学会発表、論文作成、臨床研究などなんらかの学術活動を行うことが奨励されています。日常業務から生じた疑問をまとめ研究として発表する場として、中央病院と東病院で年 1 回合同報告会を実施しています。研究の内容によっては国内外の学会に発表することができます。

Q がん以外の疾患を学ぶことができますか？

A がん以外の疾患の勉強は外部の勉強会で学ぶことができます。また、他の国立病院機構病院との人事交流を行っていますのでレジデント終了後に他の総合病院でがん以外の疾患を学ぶことも可能です。

チーム医療に貢献する薬剤師



血液/造血幹
細胞移植科



緩和ケア



呼吸器内科



肝胆膵内科

薬剤師レジデント・

小児腫瘍科





消化管内科



脳脊髄腫瘍科



乳腺・腫瘍
内科



骨軟部腫瘍科



泌尿器後腹
膜腫瘍科

がん専門修練薬剤師

研修スケジュール

【中央病院】

	1年目(4~3月)												2年目(4~3月)												3年目(4~3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
オリエンテーション	■																																			
調剤・注射調剤 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
治験・臨床試験薬調剤	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
注射混合調剤	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
麻薬服薬指導	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
病棟薬品管理	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
医薬品情報管理・TDM	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
病棟薬剤業務	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
外来化学療法ホットライン	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
薬剤管理指導 *2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
薬剤部カンファレンス	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
薬剤部ゼミ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
症例報告会	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
合同報告会																																				
Medical Oncology Conference	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
習得試験・評価	■												■												■											
日当直補助	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

*1 院内製剤を含む

*2 2年修了時までには呼吸器、血液 / 移植、消化器、乳腺、肝胆膵を約3ヶ月ごとローテーション。3年目は診療科を固定

【東病院】

	1年目(4~3月)												2年目(4~3月)												3年目(4~3月)											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
オリエンテーション	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																								
調剤・注射調剤 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
病棟薬剤業務 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
注射混合調剤 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
外来化学療法の薬剤管理指導 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
医薬品情報管理・レジメン管理 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
治験・臨床試験 *1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
薬剤管理指導 *2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
薬剤部カンファレンス	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
合同報告会																																				
Medical Research Conference	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Medical Oncology Conference	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
習得試験				■							■					■							■					■							■	
日当直補助	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

*1 2~4ヶ月ごとのローテーション。

*2 2年修了時までには呼吸器、消化器、肝胆膵、血液、緩和、頭頸部を4ヶ月ごとにローテーション。3年目は診療科を固定。

薬剤師レジデントの生活

【中央病院・東病院1年目のレジデントの1週間(例)】

中央病院					
	7:50	8:30	11:30	12:30	17:15
月		処方調剤 注射調剤・注射混合調製 麻薬調剤 レジメン管理	昼休み	医薬品情報	※薬剤師研修・講義研修 (9月～3月)
火	MOC*				※症例検討会
水					※
木					※緩和医療勉強会
金					※
土		※	勉強会参加		
日		※			

東病院					
	7:50	8:30	11:30	12:30	17:15
月		処方調剤/注射調剤 注射剤混合調製/ 通院治療センター での服薬指導	昼休み	処方調剤/注射調剤 注射剤混合調製/ 通院治療センター での服薬指導 薬剤管理指導業務	※部内勉強会
火	MOC*				※
水					※MRC*
木					※
金					※勉強会参加
土		※	※勉強会参加	※	
日		※		※	※

がんセンター内部での業務など
 がんセンター外部
 ※ 日当直または補助業務

* MOC : Medical Oncology Conference MRC : Medical Research Conference

【レジデントを支える施設】



中央病院



東病院

図書館

図書館では、国内外のがん対策の推進を支援するため、がんに関する資料を広く収集して利用者に提供するほか、オンラインによる文献検索サービスも実施しています。

薬剤業務

■ 調剤業務



●入院調剤

●外来調剤

内服・外用薬・麻薬の調剤と窓口で使用方法や副作用について患者さんにわかりやすく説明します。



●麻薬の使用法について説明 ●院外処方箋疑義照会応需

■ 注射業務



●注射薬調剤

●レジメンの確認

注射薬の調剤と抗がん剤の混合調製を行います。抗がん剤治療についてはレジメンの内容を確認しています。



●抗がん剤混合調製



■ 薬剤管理指導業務

- 乳腺・腫瘍内科
- 消化管内科
- 呼吸器内科
- 緩和医療科
- 血液化学療法科
- 血液腫瘍科・造血幹細胞移植科
- 肝胆膵内科
- 通院治療センター
- 小児腫瘍科
- 骨軟部腫瘍科
- 泌尿器・後腹膜腫瘍科

■ 医薬品情報管理業務



- 医薬品情報の収集・整理
- 治療薬物モニタリング
- 情報の加工・提供

医薬品に関する情報を収集し、医療者が使いやすい形に加工し提供します。
抗がん剤治療のレジメン登録の事務局業務を担います。



- レジメン管理・登録

■ チーム医療への参画



- 感染対策チーム：ICT
- 褥瘡対策チーム
- 栄養管理対策チーム：NST
- 外来がん薬物療法患者サポート
- 緩和ケアチーム：PCT

■ 外来薬剤師業務



- 薬剤師外来
- 外来化学療法ホットライン
- 通院治療センター

■ 医療連携



- 薬業連携
- 地域がん医療研修会

■ 治験管理業務

- 治験管理室との連携
- 治験薬管理と調剤・調製

■ 医薬品管理業務

- 医薬品在庫管理
- 麻薬管理
- 手術室医薬品管理

■ 製剤業務

- 一般製剤調製
- 院内特殊製剤調製
- 製剤品質試験

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度の創設

■中央病院におけるがん専門修練薬剤師制度について

がん領域における人材養成は当院の重要な使命であり、臨床能力の高い薬剤師の育成が社会的にも強く求められていることから、国立がん研究センター薬剤部では、この領域における高い専門性と臨床能力を持った薬剤師の教育に力を入れてきました。そのために当院では、薬剤師教育6年制が導入された2006年に薬剤師レジデント制度を創設し、指導薬剤師のもとで病院薬剤業務の基本とがん薬物療法に関する基礎から臨床までの幅広い知識・技能を習得し、患者や他職種とのコミュニケーションスキルを身に付けた、がん医療に精通した薬剤師の養成を図っています。

しかし、近年のがん薬物療法の急速な進歩に伴い、病院薬剤師の業務が質・量ともに大きく変化してきたことから、今般、現行の薬剤師レジデント制度を発展させ、病院薬剤師の臨床能力を更に高め、チーム医療や臨床研究への関わりを一層深めることを目指した「がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度」を2014年4月に開始することとしました。

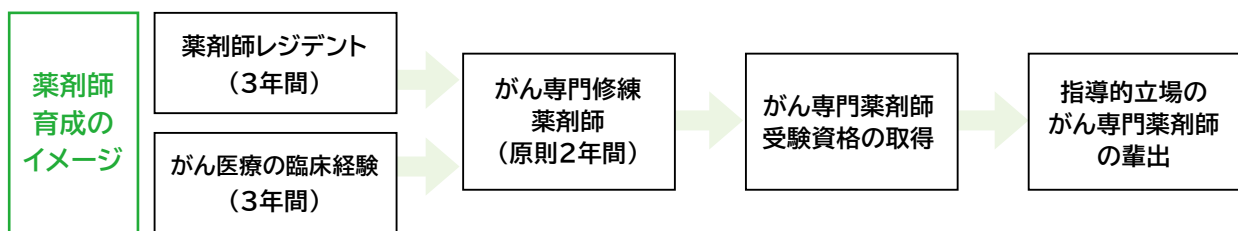
今後、薬剤師レジデント制度とがん専門修練薬剤師制度とを一体的に運用することで、日本医療薬学会がん専門薬剤師の認定要件である認定研修施設におけるがん薬物療法の5年間の研修実績を積み重ねることが可能になるのみならず、がん領域における指導的立場の薬剤師を育成し、全国のがん診療連携拠点病院に配置していくという当院のミッションに照らしても、両制度はわが国のがん医療にとって重要な一歩であると考えています。この新たな制度が志ある薬剤師にとってよき研鑽の場となり、がん医療について高度な知識と幅広い臨床経験を兼ね備えた専門薬剤師の輩出につながることを大いに期待しています。

■東病院におけるがん専門修練薬剤師制度の特徴

薬剤師レジデント制度は、病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、がん薬物療法に関する臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師の養成を目的としています。調剤や注射薬などの払出業務、混注業務に加え、薬剤管理指導業務をレジデント1年目より開始して、薬剤師としての一般的な知識と技能、そしてがん医療における薬剤師の役割と各診療科における標準的治療などを並行して習得するカリキュラムが東病院の特徴です。3年目では診療科への連携を強化し、処方支援、処方薬の説明・指導や副作用のモニタリングなどを支援しながら診療のパートナーとしてチーム医療への関わりを深めています。

「がん専門修練薬剤師」はチーム医療への関わりを把握したうえで、臨床研究への関わりを深めることを目的としています。薬剤師は臨床研究のパートナーでもあります。Clinical Questionを臨床研究に発展させて、多くのエビデンスが創出されることを期待しています。

がん専門修練薬剤師（チーフレジデント）制度（平成26年度より開始）



■各コース紹介

●治療・臨床研究開発コース

がん医療において、抗がん薬による薬物療法は集学的治療の3本柱の一つです。最近では分子標的薬の開発により、対象となるポピュレーションの拡大等の面で大きな変化を遂げている反面、個別投与設計ではまだまだエビデンスが不足しています。特に、高齢者など臓器機能が低下している場合や臓器機能障害がある患者においては、薬物療法の中心である殺細胞性薬の選択肢が狭められる一方で、イマチニブに代表される分子標的薬は、PKが直接治療効果に結びつくなど、近年いくつかの興味ある報告がなされ、TDM（薬物治療モニタリング）が行われています。中央病院薬剤部ではこれまで、いろいろな抗がん薬について臨床医と協力して前向きPK/PD研究に取り組み、エビデンスを構築してきました。本コースでは、さらに国立がん研究センター研究所との連携を図り、これまで培ってきたPK/PD研究のノウハウにPharmacogenomicsの概念を加えたりパー

ス・トランスレーショナル・リサーチ (rTR) に進んでいく予定です。薬物代謝酵素やトランスポーターの機能解析なども視野に入れ、後期治療開発に資する rTR を是非一緒に行いましょう。

年間スケジュール	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	1	2	3
固定診療科にてチーム医療の実践																						
薬剤部ゼミで研究コンセプト披露																						
臨床研究プロトコル作成																						
倫理審査委員会にてプレゼンテーション																						
臨床研究																						
米国臨床腫瘍学会などにチャレンジ※																						

●造血幹細胞移植科専門コース（中央病院）

造血幹細胞移植療法は自家・同種合わせて年間 5,000 人以上の患者さんがその恩恵を受けています。移植前処置の抗がん剤は「超大量」であり、副作用の頻度、重症度も通常とは大きく異なります。また、移植後 GVHD（移植片対宿主病）の症状コントロールも簡単ではなく、長期間に渡って「くすり」との付き合いが余儀なくされます。

私たち薬剤師の務めは、科学的根拠に基づいた「標準的な」治療の実践は当然であり、さらなる $+\alpha$ （プラスアルファ）、つまり患者さんの様々な背景を踏まえ、薬理学や薬物動態学といった「薬学」を土台にした薬物治療の提案を行っていくことです。それができてこそ真のスペシャリストとして認められます。私たちの $+\alpha$ が吹き込む風は移植成績の向上に必ず繋がります。しかし本邦ではまとまった症例を経験することが難しく、臨床経験豊富な「指導者」はそれほど多くいません。

欧米では BMT Pharmacist は難関であり、人気も高いといわれています。ぜひ日本の薬剤師も負けていないことを一緒に示していきましょう。



●支持療法コース（東病院）

国立がん研究センター東病院は 24 床の PCU 病棟と国内では数少ない精神腫瘍科を有するがん専門病院です。当コースは患者の全人的苦痛の緩和



を目指した薬学的アプローチの実践とその研究を目的としており、緩和ケアチームや PCU 病棟での薬剤師活動とそれを土台にした臨床研究を行ってもらう予定です。研究を支援するツールとしては高度な分析機能を有する LC-MSMS を所有しており、オピオイド等の薬物血中濃度測定や電子カルテ情報を用いた臨床研究が可能です。また、精神腫瘍科の協力により、抑うつやせん妄など精神的苦痛に関する臨床研究も可能です。当院は地域医療への介入研究を行っていた実績があり、在宅医療の分野でも薬剤師の新たな業務を模索することが出来ます。しかし、薬剤師の新規業務を確立させるためにはそのエビデンスの創出が必要です。当院の様々な医療資源を用いることで出来る研究は多数あります。がん医療に寄与できる新しい薬剤師業務の構築にあなたも携わってみませんか。

●固形腫瘍診療科固定コース

国立がん研究センターでは、5 大がん種（乳がん、肺がん、大腸がん、肝がん、胃がん）以外にも、頭頸部がんや膵がん、骨軟部腫瘍（肉腫）、血液がん（悪性リンパ腫など）、小児がんとさまざまながん種について専門性の高い診療を行っています。既存のレジデント制度では、まず、基本的に 5 大がん種についての薬学的管理介入を中心にカリキュラムが組まれますが、本コースは、こうした希少疾患に対しても薬学的管理介入を実践できる貴重なコースとなっています。また、5 大がんのなかで、がん専門修練薬剤師を卒業したのちに中心的にマネジメントしなければならない領域が決まっている方には、そのがん種において重点的に薬学的管理介入を実践していただけるコースでもあります。研修期間中にはリサーチマインドも養っていただくなど、がん領域において指導的立場の薬剤師となつていただくためのノウハウを学ぶことができます。本コースは、中央・東の交流も可能です。皆さんニーズに合わせたプラン設計が可能ですので、相談していきましょう。



募集要項（中央病院・東病院）・薬剤師レジデント

1. 応募資格

平成 20 年 3 月以降大学を卒業した薬剤師免許取得者、または、平成 30 年 3 月卒業見込みで薬剤師免許取得見込みの者。

2. 募集人数（予定）

中央病院 6 名
東病院 6 名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「薬剤師レジデント願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 人材育成センター教育連携室教育連携係
- II. 締切日 平成 29 年 7 月 7 日（金）必着
- III. 必要書類
- 願書（所定様式）
 - 健康診断書（所定様式）
抗体検査確認表（所定様式）
 - 薬剤師免許の写し（A4 判に縮小）
 - 大学の卒業証明書または大学院修了書の写し（A4 判に縮小）（薬学部生は、成績証明書）
 - 在職証明書（大学院の在籍証明書も可）

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

（中央病院） 平成 29 年 7 月 21 日（金） 午前 9 時から
（東病院） 平成 29 年 7 月 20 日（木） 午前 9 時から

6. 選考会場

- (中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
- (東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

平成29年8月中旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

非常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

薬剤師レジデント研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、薬剤業務および病棟業務に従事します。
（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

- I. 手当 非常勤職員手当の規定に基づき支給されます。
(平成29年度見込総支給額 約300万円)
- II. 保険 社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
- III. 宿舎 (中央病院) 単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舎（有料）を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

- (中央病院) 平成29年5月19日（金）14時～16時
- (東病院) 平成29年5月18日（木）14時～16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター中央病院人材育成センター教育連携室教育連携係
E-mail : kyoiku-resi@ml.res.ncc.go.jp

募集要項 (中央病院・東病院)・がん専門修練薬剤師 (チーフレジデント)

1. 応募資格

- (1) 国立研究開発法人国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、または平成 30 年 3 月に同研修を修了見込みの者
- (2) (1) に相当する学識を有する者で、平成 30 年 4 月 1 日時点で原則として 3 年以上のがん領域における臨床経験を有する者

2. 募集人数 (予定)

中央病院 2 名
東病院 2 名

3. 出願手続

- I. 願書受付 中央病院・東病院ともに下記あてに郵送して下さい。
封筒の左隅に「がん専門修練薬剤師願書」と朱書きして下さい。
【送付先】
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター 人材育成センター教育連携室教育連携係
- II. 締切日 平成 29 年 9 月 29 日 (金) 必着
- III. 必要書類
- a. 願書 (所定様式)
 - b. 健康診断書 (所定様式)
 - c. 上司または指導者の推薦書 (所定様式)
 - d. 薬剤師免許の写し (A4 判に縮小)

4. 選抜方法

書類審査、筆記試験および面接試験

なお、応募者が多数の場合は書類にて一次選考を行います。

5. 選考日時

(中央病院) 平成 29 年 10 月 13 日 (金) 午前 9 時から
(東病院) 平成 29 年 10 月 12 日 (木) 午前 9 時から

6. 選考会場

- (中央病院) 国立がん研究センター 中央病院管理棟会議室
東京都中央区築地5-1-1
- (東病院) 国立がん研究センター 東病院会議室
千葉県柏市柏の葉6-5-1

7. 合格発表

平成29年11月中旬 ※採否は郵送にて通知します。

8. 身分

非常勤職員（薬剤師）

9. 勤務

がん専門修練薬剤師研修課程（中央病院、東病院）に基づき、指導薬剤師のもと、より専門性の高い病棟・外来業務や研究に従事します。（日当直または補助業務を含む）

10. 処遇等

- I. 手当 非常勤職員手当の規定に基づき支給されます。
(平成29年度見込総支給額 約400万円)
- II. 保険 社会保険（厚生年金・雇用保険）に加入します。
- III. 宿舎 (中央病院) 単身者用の宿舎（有料）を、空き状況により利用できます。
(東病院) 単身者用の宿舎（有料）を利用できます。
- IV. 修了 所定の研修修了時に修了証書を交付します。

11. 説明・見学会

- (中央病院) 平成29年5月19日（金）14時～16時
- (東病院) 平成29年5月18日（木）14時～16時

※説明・見学会へ参加される方は、参加希望会場、氏名、現住所、所属（施設名または大学名）、連絡先を事前にお知らせください。

※9月にオープンキャンパスを予定しています。

説明・見学会参加の連絡先

国立がん研究センター中央病院人材育成センター教育連携室教育連携係
E-mail : kyoiku-resi@ml.res.ncc.go.jp

メッセージ レジデント11期生より



国立がん研究センター中央病院

吉田 昌史 (東京都出身)

私は大学5年次での病院実習がきっかけでがん領域に興味を持ちました。病院実習では化学療法と放射線療法による副作用に苦しんでいる患者さんを担当し、少しでも副作用による苦痛を減らしてがん治療に臨めるようなアプローチができる薬剤師になりたいと思いました。当院はがん領域を専門的に学べる環境であり、充実したレジデント制度があるので志望しました。レジデント一年目は調剤業務がメインであり、幅広く薬剤の知識を得ることができます。勉強会などもプログラムされており、日々の業務で得た知識を更に深めるだけでなく病棟業務で必要となる知識・スキルも習得することができます。また、当院はレジデント用の宿舎があることも魅力の一つだと思います。私は通勤時間をなるべく短くしたいと考えていたため、宿舎が職場の近くにあることにとても助けられています。様々な魅力がある職場だと思うので、是非一度見学に来てみて下さい。



国立がん研究センター中央病院

住吉 愛 (福岡県出身)

私は、日本人の死因第1位であるがんの領域で薬剤師として活躍したいと思い、当院を志望しました。近年では新薬も次々と開発されており、その中で薬剤師として力を十分に発揮するには、高度ながん薬物療法の知識と高い専門性が問われると考えています。当院のレジデント制度1年目では、ルーチンワークを行うなかで薬剤師として基礎的な知識や技術を築くだけでなく、がん特定病院であるからこそ数多くのがん薬物療法に触れることができます。2年目からは病棟に行くことになり、患者さんと接する機会が増えますが、日々知識を吸収してそれを少しでも患者さんに還元したいと考えています。また、スタッフの先生方やレジデントの先輩方はとても温かく、日々の業務や勉強会を通して熱心に指導をしてくださり、薬剤師として成長するにはこの上ない環境だと感じております。皆さんも是非、がん患者さんに貢献できる薬剤師になるために、一緒に充実した日々を過ごしませんか。



国立がん研究センター中央病院

渡邊 一史 (島根県出身)

私が当院のレジデントを選択した理由は、日本において最先端のがん治療を学ぶためです。現在、2人に1人はがんになる時代です。その様な状況の中、薬剤師ががん治療に関わる事は必須になります。抗がん剤調製、レジメンチェック等がん治療に関わる内容は多岐に飛んでいます。今後も患者さんに最適な治療を提供するために、薬剤師はさらになんか治療に対する最新の治療薬・方法を会得していく必要があると思います。その様な中、当院のレジデント制度は仕事を通して国内最新のがん治療を学ぶことが出来、経験することが出来ます。この様な事が出来るのは当院レジデント以外無いと思います。また、薬剤師の先生方は皆さん優しく、知識が豊富で、様々な事を教えてください。レジデントと薬剤師の先生との距離が近いのも当院レジデント制度の特徴だと思います。この様な環境でがんに関して学べる事は国内において当院レジデント制度以外無いと思います。もし、この様な環境で最先端のがん治療を学びたいと思うなら、ぜひ、当院レジデントを受験してください。



国立がん研究センター中央病院
島貫裕実子（東京都出身）

私が当院を志望したきっかけは、学生の頃当院で病院実習をさせて頂いた事にあります。がん領域は、患者さんが薬の副作用で苦しむ事が多い領域であり、薬剤師として患者さんのQOLを向上させる為にどのような事を実践しているかを学びたいと感じ、実習先として当院を志望しました。実習では10以上の診療科を回らせて頂きましたが、どの診療科でも処方提案の積極的介入等、薬剤師による病棟業務が非常に充実していると感じました。また自分の理想とする薬剤師の先生や尊敬する先生方と出会い、『このような先生方の元で働きたい』と思い、入職を決意しました。実際に入職してみると、レジデント制度が確立しており教育熱心な先生方が多い事や、研究他ではなかなか出来ない事を経験させて頂ける事、自分の努力次第でいくらでも道が広がる環境である事を改めて実感しました。業務や勉強会、研究等で大変なことが多い毎日ですが、これからも努力を怠らず、日々精進していきたいと思えます。



国立がん研究センター中央病院
八城知可乃（東京都出身）

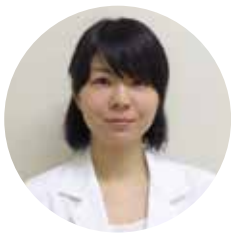
祖父を癌で亡くし癌についてもっと学び、癌に精通した薬剤師になりたいと考えていた矢先に当院のレジデント制度を知り、志望しました。また、当院は癌治療に特化した病院であり、癌治療におけるスキルや知識を学ぶには最高の環境であると考えたことも志望動機の1つです。当院のレジデント制度では、薬剤師としての基本的な業務に加えて治験業務やDI業務、勉強会・講義研修等の座学やディスカッションも参加でき、日々新しい事を学べる喜びがあります。また、2年次より5診療科をローテーションすることができ、一定のがん腫に偏った知識ではなく、多くの癌腫について勉強する事ができます。既存の治療から珍しい治療、最先端の治験まで、様々な癌治療に携わることができ、癌について学びたいと思っているのであれば、当院の薬剤師レジデントは最高の環境であると思えます。癌治療に興味のある方、ぜひ当院の薬剤師レジデントを志願されてみてはいかがでしょうか。



国立がん研究センター中央病院
野口沙斗美（群馬県出身）

私は、大学での卒業研究を通してがんを知るうちに、がん患者さん個々にとって最善の薬物療法および支持療法を提供できる薬剤師になりたいと考えるようになりました。がん医療における専門性の高い知識および臨床経験を身に付け、副作用による治療断念などがないようにサポートしたいと思い、当院の薬剤師レジデントを志望しました。薬剤師として必要な一般的な知識の習得だけでなく、数多くの抗がん剤調製や治験、症例報告会や臨床研究など日本最先端のがん医療に携わることが出来る環境が当院の魅力です。時には大変なこともありますが、互いに切磋琢磨し合う同期、レジデントの先輩方、高い志をもった指導薬剤師の先生方と、多くの支えの下で貴重な経験を積めることに感謝し、この道を選んで良かったと日々実感しています。がん医療に貢献したい、がん専門薬剤師を目指したいという熱い思いをもった方、「All Activities for Cancer Patients！」患者さんのために、共に、より良い医療をつくりませんか。

メッセージ レジデント11期生より



国立がん研究センター東病院
阿部 紀子 (埼玉県出身)

私は3年間薬局薬剤師として働いてきました。大病院の門前というわけでもなく、クリニックの隣のいわゆる町の薬局でしたが、それでもがん患者さんはいらっしゃいました。そんな患者さんに接する度に感じたのは、自分の薬剤師としての無力さともどかしい気持ちでした。2人に1人ががんになってもおかしくない今、いつ自分の身近な人ががんを患ってもおかしくない時代です。もしもそんなときがやってきたら私は以前と同じいたたまれない想いはしたくない、自分の知識をもって薬剤師の立場から最善の治療となるように導きたい、そう考えがん治療の最先端であるがん研究センターを志望しました。レジデントは、綿密なカリキュラムのもと集中的に学べる絶好の機会です。もちろん楽しいことばかりではなく大変なことも多いですが、それを乗り越えられるよう支えてくれる温かな同期や先輩、先生方がいます。レジデントになってからは、忙しさに追われながらも確かにやりがいを感じています。日々学んだことを吸収し、糧として患者さんの為に活かしていきたいと思います。熱意ある先生方のもと、一緒に成長していきませんか？



国立がん研究センター東病院
三浦 華歩 (神奈川県出身)

抗がん剤治療中に出現した副作用には個人差がありかつ著しい症状が出現することもあります。私は大学時代の実務実習の際に、適切な支持療法の選択により副作用が軽減する臨床現場を目の当たりにしました。その経験から、私は副作用なくがん治療を行っていくために個々の患者に合わせた適切な支持療法を考慮する上で、チーム医療の中で薬剤師としての役割を果たすことの重要性を実感しました。そこで私は、将来薬剤師としてがん医療に貢献していくための第一歩として当院の薬剤師レジデントを志望しました。薬剤師一年目であり未熟な点を実感することも多々ありますが、意欲の高い先輩薬剤師にご指導いただくと共に同期と切磋琢磨しながら精進する日々を過ごしています。三年間という限られた時間の中で、より多くの知識を身につけるとともに臨床経験を重ね、チーム医療の中で薬剤師としてがん患者さんのために貢献できるよう努力していきたいと思います。



国立がん研究センター東病院
森本 麻友 (兵庫県出身)

私はがん医療の均てん化に貢献し、これからのがん医療を支えていく薬剤師になりたいと思いました。そして、祖父ががんになり抗がん剤の副作用や痛みで苦しんでいる姿を目の当たりにし、がん治療について学びたいと強く思いました。国立がん研究センター東病院は日本における最先端のがん医療が学べる環境が整っており臨床研究を行うなど、専門性の高い知識を身につける事が出来ると感じました。そのため私は、国立がん研究センター東病院のレジデントを志望しました。毎日、スタッフの先生方やレジデントの先輩方が熱心に指導して下さり、大変有意義な時間を過ごしております。3年間という限られた時間ではありますが、初心を忘れずに最良のがん医療を学び、多くの患者さんに信頼され、必要とされる薬剤師になるためにこれからも、日々精進していきたいです。



国立がん研究センター東病院
中村 真穂 (千葉県出身)

祖父母が、がんに罹患し治療において苦労している姿をみてきたこと、がん家系に生まれたことで「がん」に興味を持ち、薬物治療でがん患者さんとそのご家族を支えていきたいと思うようになりました。東病院が実施している一日体験プログラムを通じ、レジデントの先輩方が何事にも熱心に取り組む姿に感銘を受け、私も患者さんのために貢献したいと強く思う契機となりました。最先端の施設で最先端のがん薬物療法を働きながら学ぶことができ、必要な知識と技術を身につけられることに魅力を感じ、東病院の薬剤師レジデントを志望しました。また東病院は医師や看護師、他職種との距離が近くチーム医療に積極的に取り組んでいる部分も魅力に感じました。3年間という限られた期間ではありますが、1日1日を大切にがん患者さんに貢献できる薬剤師になれるよう先輩レジデント、スタッフの先生方から学び、日々研鑽していきたいと考えています。



国立がん研究センター東病院
田内 淳子 (東京都出身)

私は、病院実習中に化学療法・緩和ケア科で学んだ経験がきっかけで薬剤師レジデントを目指しました。実習中に、抗癌剤の副作用や癌による疼痛に苦しむ患者さんに対して、薬剤師の適切な薬物治療の提案により、再び患者さんの笑顔を見られた機会がありました。チーム医療における薬剤師の活躍が、患者さんに貢献できる姿を目の当たりにし、私もその様な薬剤師になりたいと強く感じました。そして、癌領域に精通した当センターのレジデントになることにより、自分の理想とする薬剤師になるための知識や経験を修得できるのではないかと考え、志望しました。薬剤師1年目のため未熟な部分が多いですが、先生方の熱心なご指導のもと、勉強を積み重ね、充実した毎日を過ごしています。3年間という限られた時間の中で多くのことを吸収し、癌と闘う患者さんに少しでも貢献できる薬剤師になれるように日々精進していきたいです。



国立がん研究センター東病院
堀之内 藍 (宮城県出身)

『私は癌で死にたい』。癌=死という認識でいた学生時代の自分にとって、この本との出会いから緩和医療、死生観というものに興味を持ち始めました。癌になってもその影に隠れずに自分らしさを全うして生きて欲しい。緩和ケアとは死ぬ場所ではなく自分らしく生きる場所であるということ伝えて。そして、患者の死生観を踏まえた全人的な痛みを薬剤師として取り除きたいという想いから緩和ケア病棟のある国立がん研究センター東病院のレジデントへの道を選択しました。前職の大学病院でのジェネラリストとしての知識を活かしつつ、がんセンターで抗がん剤、医療用麻薬などの専門的な知識を深め、将来はがん治療、緩和医療の地域均てん化を行っていききたいと思います。患者さんのための臨床、研究、そして若手薬剤師への私がこれから学んでいく知識の教育の3本柱で活躍できる薬剤師になれるよう、日々精進していきたいと思っています。

メッセージ がん専門修練薬剤師より



国立がん研究センター東病院

鈴木 秀隆 (4期がん専門修練薬剤師)

私は、薬剤師レジデントとして入職する以前から、臨床分野と基礎分野の橋渡しができる薬剤師を目指してきました。薬剤師レジデントとしての3年間では、多くの患者さんと接することができ、臨床の現場での薬剤師とは何たるかを身をもって学びました。また、臨床研究では、診療科の医師にもご協力頂き、自身の研究成果を海外で発表することができました。がん専門修練薬剤師の課程では、これまでの臨床に専念する3年間とは大きく異なり、基礎分野に専念する時間を頂きました。私の理想の薬剤師像である臨床分野と基礎分野の橋渡しができる薬剤師になるためには、基礎分野においても自身の力で研究し、論文を執筆していく能力を身につける必要があります。私は頂いた2年間という貴重な期間で、この能力を身につけ、自身の理想とする薬剤師像に近づき、将来的には同じような考えを持つ薬剤師を支援できるシステム作りにも携わっていきたいと考えています。




国立がん研究センター東病院


魚住 真哉 (3期がん専門修練薬剤師)

私が新卒でレジデントとして入職する際、3年後は総合病院で働くことを考えていました。レジデントとしての3年間、実際の患者さんを担当する中で学べたことはとても貴重でした。実際に担当している患者さんのことで悩み、疑問に感じたことを調べて考えることで様々な視点で症例を診る力を養えました。1人1人患者背景も治療も異なる中でこういった考えが学べたのは薬剤師としてとても有意義でした。その中で3年目に頭頸部内科に配属となる際にCetuximabによる皮膚障害に関して、何かできないか考えるようになりました。これはやはり実際に頭頸部の患者さんに接していたから生じたものであり、その中で1つのテーマを研究にして患者さんの皮膚障害を少しでも軽減できるようになればと思うようになりました。修練薬剤師はその研究ができる環境であり、1つのことを形にして患者さんに貢献したいと考え、私は修練薬剤師を目指しました。

メッセージ レジデント修了者より

 国立がん研究センター中央病院勤務
大塚 亮 中央病院9期

私は一般病院で勤務していた際、がんに対しての知識や経験が圧倒的に不足していることを痛感し、がん領域において真に求められる薬剤師になりたいと考え、レジデントを志願しました。3年間を振り返ってみて感じたことは、レジデントとして学ぶことができよかった、この一言に尽きます。よき指導者にも恵まれ、学会発表や研修会への参加など貴重な経験をすることができました。私はこの3年間で薬剤師としてだけでなく、人間として大きく成長できたと思います。レジデント生活は決して楽な道のりではありませんが、自らの意志ひとつでその困難が大きなチャンスに変わります。ここでしか得ることができない経験があります。目まぐるしく進歩していくがん医療において、ここ国立がんセンター中央病院でリーダーシップを発揮して患者中心の医療を提供できる薬剤師を目指しませんか？

 国立がん研究センター東病院勤務
藤城 法子 東病院8期

現在私が所属している国立がん研究センター東病院 臨床研究支援部門では、医師主導治験を含む臨床研究の企画や実施に関する様々な支援や、臨床研究を管理する委員会等の事務局業務を担っており、一つ一つの臨床研究の立ち上げから施設としての管理体制まで、幅広い視野を持って業務に当たることができます。

また、レジデントで経験したことを生かし、日本病院薬剤師会における、がん薬物療法認定薬剤師の取得や国際学会(ASCO-GI)でのポスター発表を行いました。同僚やご指導くださった薬剤師、医師その他の多くの方の支えがあったからこそ、レジデントとなる前には考えられない現在の自分に結びついたと思っています。

今後は、後に続く薬剤師のために、臨床研究中核病院としての薬剤師の役割として、臨床を経験してきた薬剤師だからこそ貢献できたという実績を作っていきたいと考えています。

先輩方を見ても、レジデント修了後の活躍の場は、どんどん広がっていると感じています。

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



交通案内



築地キャンパス

- 中央病院
- 研究所
- がん予防・検診研究センター
- がん対策情報センター



〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
TEL 03-3542-2511

- ・都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅 A3 番出口から徒歩 1 分
- ・東京メトロ 日比谷線 築地駅 2 番出口から徒歩 5 分
- ・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅 6 番出口から徒歩 5 分
- ・東京メトロ 有楽町線 新富町駅 4 番出口から徒歩 10 分



柏キャンパス

- 東病院
- 先端医療開発センター



〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
TEL 04-7133-1111

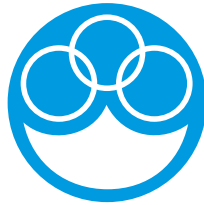
- ・つくばエクスプレス 柏の葉キャンパス駅西口から、東武バス（国立がん研究センター経由）江戸川台駅東口行きまたは柏の葉公園循環行き 6 分 国立がん研究センター下車またはタクシー 4 分
- ・JR 常磐線・東京メトロ千代田線・東武野田線 柏駅西口から、東武バス国立がん研究センター行き 30 分またはタクシー 20 分
- ・東武野田線 江戸川台駅東口から、東武バス（国立がん研究センター経由）柏の葉キャンパス駅西口行き 10 分 国立がん研究センター下車またはタクシー 7 分
- ・羽田空港から、東武・京浜急行高速バス柏駅西口行き 1 時間 15 分
- ・常磐自動車道 柏 IC. 千葉方面出口から 国道 16 号線へ 500m 先を右折 5 分

出願に関する照会及び採用願書用紙の請求先

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 人材育成センター 教育連携室 教育連携係

TEL 03-3542-2511 内線 2203 E-mail: kyoiku-resi@ml.res.ncc.go.jp



国立研究開発法人
国立がん研究センター

<http://www.ncc.go.jp/>